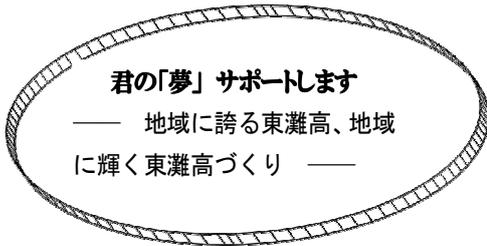


平成23年度 兵庫県立東灘高等学校 学校評価

学校経営の重点



めざす生徒像

21世紀をこころ豊かに、自らの未来を切り拓き、逞しく生きる生徒

◇「夢」や「志」を抱き、粘り強く挑戦し続ける生徒

人生の目標を持ち、積極的に自己の可能性を切り拓く

◇心身ともに健康で、自律性・社会性を身に付けた感性豊かな生徒

思いやりや寛容の心を持ち、互いを尊重する豊かな人間性と社会性を育む

重点目標

I 学びを徹底し個性を伸ばす学校	II 地域に愛され信頼される学校 (開かれた学校づくり)	III 活力ある組織づくり	IV 明るく爽やかな職場づくり
基礎・基本の定着と活用する力の育成	地域交流活動・ボランティア活動の質的向上	各分掌の目標設定(数値目標) PDCAサイクルの徹底	磨きあい、支えあう教員集団
個に応じたきめ細やかな指導の徹底	公開授業・研究授業の推進と情報発信の強化	報・連・相の徹底	風通しの良い職場
部活動の活性化と体験活動の充実	中学校訪問や学校説明会とオープンハイスクールの充実	教職員の結束と協働体制 (チームワーク)の確立	勤務時間の適正化の推進
規範意識の徹底とマナー指導の強化			
インターンシップの推進とキャリア教育の強化			

評価 A 満足できる B やや満足 C 満足できない

重点目標 I 学びを徹底し個性を伸ばす学校

	具体的な取り組み	評価指標 実施状況(今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
基礎基本の定着と活用する力の育成	教務部	移行教育課程・新教育課程の策定	B	実際の運用において、小学生高学年レベルの内容からの定着を図るために教材の選定、各学期の詳細な展開計画を立案する必要がある。年度ごとに検討を加える必要がある。	●基礎の定着のために、基礎学力をつけさせるための努力がされている。
		基礎学力の向上の方策	A	習熟度のありかたをさらに検討して、より効果的な授業運営や学習の定着を図っていく必要がある。	●生徒のニーズに合わせた授業をしてもらっている。 ●習熟度別学習は必要な指導であり、生徒への丁寧な指導がなされている。
	進路指導部	生徒一人ひとりの能力・希望に応じた進路実現ができるように基礎・基本の定着、活用する力の育成を図る	A	この状況を維持する努力を共通認識することが、少なくとも今年度はできていた。状況は年々充実してきている。マンネリにならぬよう引き締めていくことが大切だ。	●先生方の努力がみうけられる。
個に応じたきめ細やかな指導の徹底	教科担任・教科指導	進路指導部と学年が連携を深めながら計画的な補習や校外模試が企画・実施することができましたか 放課後や休業期間中に効果的な補習実施を呼び掛けた。1・2年では英数国、3年では英数国理社を夏季休業中の前期7日間、後期7日間実施した	B	従来は進路指導部は3年生とのみ連携し、1・2年生の連携はあまりなかった。しかし、定期的に進路指導部会を持つようになり、話し合った結果、1・2年生が進研全国模試(総合理系+希望者)、進路マップ(それ以外)にて全員受験するとの合意が生まれた。来年はさらに全学年との連携を進めていきたい。	●一定の進学実績や模試成績をもっと保護者に教えてほしい。
		休業中の教科指導(補習)や体験学習が計画的に実施され、生徒の学力向上と進路実現の意識向上が図れましたか 3年生の放課後補習において英数国理社に加えて就職・看護医療対象補習を実施。夏季休業中は前後期7日間の補習に加えて甲南大学で希望者対象の学習会を実施し、生徒の進路実現の意識向上に努めた。3月初旬に兵庫大学・流通科学大学に希望者を引率して体験学習を実施し、生徒の意識向上に努めた。	B	そもそも本校の進路指導の流れ、キャリア教育の学校としての取り組みは確立されており、各自の合意もなく、行きあたりばったりである。来年度は、実施の決まった2年次インターンシップも視野に入れたキャリア教育の全体計画を作成して取り組んでいきたい。	●希望をすればだけでも大学に入れる時代になっている。しかし、進学に対して意欲的ではない生徒が入学しているように見受けられる。無為に入ってきた生徒にいかに進学したいという意欲を持たせるかが大事である。
		教科書以外の副教材(プリント・資料・ビデオ)は授業の理解に役立っている実感できましたか 副教材やプリントは、授業の理解と、授業展開の効率性に役立っている。	A	副教材の使用法や授業で配布するプリントの共有化、情報提供を密に実施、チームで研究し、授業に効果的に使用する。	●丁寧な指導がなされていると感じる。
		予習・復習の習慣づけと小テスト等を実施して、生徒の興味・関心がわき、さらに学びたいと思う授業ができましたか 英語、国語の小テストを学年で実施できた。各教科でも小テストを実施している。	B	家庭学習のさらなる定着のため、予習課題を定期的に課す必要がある。この家庭学習の結果を授業の平常点に加味し、「やる気」向上を図る。次に、各種資格試験などにも挑戦させる基礎力の向上を計画的に図る。	
		話し方(声の大きさ・スピード)は、はっきりして聞きやすい、指示や問いかけは、はっきりしてするなど、授業の改善に努力はできましたか 話し方、指示、問いかけは授業改善におおむね役立った。	A	話し方はもちろんのことながら、生徒の聞き取りの訓練として、国語科などでも高速聴覚刺激学習などを取り入れる。これにより、生徒の学習能力の向上を図る。教員間での、新しい学習方法の研究、情報交換を活発に行い、効率的授業展開に役立っている。	●生徒が分かりやすい授業をしてほしい。
		板書の内容・量を含め、整理して分かりやすい授業ができましたか 板書でのチョークの色を使い分けることなどにより、授業理解に役立った。	B	板書だけでなく、パワーポイントなどプレゼンソフトを既に授業展開に使用している教科もあるが、教員間での「使用例」などの情報交換、研究を実施する。これにより、効率的授業展開をさらに定着させる。	●生徒の興味関心が高まる授業をしてほしい。

平成23年度 兵庫県立東灘高等学校 学校評価

	具体的な取り組み	評価指標 実施状況(今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員・学校関係者評価委員 の提言
個に応じたきめ細やかな指導の徹底	進路指導部	進路指導部が学年と連携を図り、生徒にとって有益で充実した進路ガイダンスを企画・実施することができましたか 学年や各部との連携を密にして、個に応じたきめ細やかな進路指導を行う	B	本校の進路結果をみると専門学校の数が多すぎる。これをいかに減らして大学・短大を増やしていくかが課題である。進路ガイダンスを業者任せにせず、しっかり内容を吟味し、生徒が勉強に一心に取り組めるような大学短大の紹介、経済的に事情のある生徒には奨学金を紹介するなど検討してゆきたい。	●学校として成果の上があった内容を具体的な数字として出してほしい。 ●個別面談などの丁寧な指導を一層続けてほしい。
	各学年	資格・検定取得による進路実現 資格や検定を積極的に挑戦させ、生徒の進路実現に努力することができましたか 英検、漢検、情報処理検定等、生徒が資格獲得に向けて積極的に活動していた。	A	進学、就職に直結した資格を模索する必要がある。進学では具体的に英検・漢検2級を目標にする。就職では簿記等の即戦力になる資格が求められる。	
	各学年	丁寧な指導 生徒の一人ひとりへの面談や、教科においても個々に応じた指導を丁寧に行うことが出来ましたか 定期的、及び必要に応じて、個人面談が実施できた。教科においても習熟度クラス編成で学力に応じた指導が行えた。	B	生徒との個別面談はタイムリーに、より頻繁に行う必要がある。	
部活動の活性化と体験活動の充実	生徒指導部	部活動の充実・活性化を図る取組みは出来ましたか 入部率が50パーセントを切り、やや低下傾向も見られ、来年度は1年生を1学期間はクラブ全入制にすることにした。そのため同好会を6つ増設した。	B	1年生のクラブ全入制のための問題点を整理し、指導の在り方を徹底していく。また、互いのクラブを応援できる体制も整えていく。	●部活動を通して生徒はいきいきと活力ある学校生活を送っているように思う。 ●充実した学校生活を送れるようにお願いしたい。
	生徒指導部	生徒会活動、ホームルーム活動、委員会活動、部活動の充実を図る 生徒会活動、ホームルーム活動、委員会活動の充実・活性化を図る取組みは出来ましたか 生徒会係の先生への負担が大きかった。生徒が中心となった生徒会活動、ホームルーム活動、委員会活動になるには、さらに体験的な活動の指導が必要となる。	B	生徒が企画のできる活動を計画していく。文化祭は実行委員会形式にし、できるだけ生徒の活動できる機会を増やしていく。ホームルーム活動、委員会活動も生徒の活動できる機会を増やす。	
	各学年	LHR 体験学習の充実 1年間のLHRが計画的に運用できたと実感できましたか 各学年内容のあるLHRが実施できたが、1年間を見通して計画的に運用できたとはいえず、もう少し早めに余裕を持ってプランを練れば、より充実した取り組みができたと思う。	B	人権学習等も含めた年間HR計画を年度当初に立てたい。	
	各学年	委員会活動 ホームルーム活動 委員会活動やホームルーム活動を活性化させるために努力ができましたか 定期的に行われる委員会活動が不足していた。改善が求められる。またホームルームの年間計画が不十分であった。	B	しっかり3年間を見通したホームルーム計画が必要である。生徒主体の活動も弱い。実施内容を明確にし、学年間の引継、担当教師のフォローが必要である。	
規範意識の徹底とマナー指導の強化	生徒指導部	規範意識を高め、基本的な生活習慣を身につけさせ、規律・秩序の確立に努める 生徒のマナーやモラルに関する指導を授業やHRで行い、「東灘高生のマナー」について考えさせるなど規範意識の向上を図れましたか 全校集会や学年集会またHRにおいて常に生徒には情報を提供し、地域や外部との関係性があることを伝え、「東灘高生のマナー」については、授業環境を作っていた。また、授業においては、「授業規律週間」や「授業公開週間」の実施により、規範意識の向上を図った。	B	全校集会や学年集会では必ず生徒指導関係の話は継続的に、地域との関係の中に学校はあることや、「東灘高のマナー」を向上させていく意識を高めていく。校内においても「授業規律週間」や「授業公開週間」を一時的なものとしてではなく、習慣化できるようにしていくことを目標とする。	●生徒が良くなっているのはわかるが、保護者や地域に伝わりきっていない。 ●イメージアップを図る努力はされているが一度ついた悪いイメージはなかなか払拭することは難しい。 ●下校指導をもっとすれば評価がある。
	生徒指導部	下校時の身だしなみ 終わりのSHRや放課後において、下校時の身だしなみの指導ができましたか SHRで身だしなみを確認して、下校はさせていたが、昇降口において指導が入る生徒もいた。	B	SHR時の指導を徹底していく。また、昇降口や正門前、また下校指導を計画的に行い、身だしなみを整えていく。	
	生徒指導部	交通安全教育を推進する 「4ない運動」の指導の継続を意識し、命の大切さの啓発を図ることができましたか 全校集会等の機会を利用して注意喚起を行い、命の大切さを啓発したが、あまり多くの機会をもって、話題に上げられなかった。 登下校における交通ルール遵守やマナー向上のための指導ができましたか 全校集会や学年集会で交通ルール遵守やマナー向上の話を行い、また、登下校時に立ち番を行うことで指導をした。	B	全校集会・学年集会・HR等の生徒の集まる機会を利用した啓発は継続していく。また、生徒指導部等の情報交換の場でも「4ない運動」を取り上げていく。 B 警察などの外部講師による全校講演会によるマナー意識向上の機会を作っていく。全校集会や学年集会などの機会でも意識向上を図る。	
インターンシップの推進とキャリア教育の強化	進路指導部	キャリア教育の推進 職業人、地域の関係者、卒業生による進路講演会、大学等の実地見学をそれぞれ年間1回以上実施し、進路実現に役立てられたと実感できましたか 特色類型を始めとする医療看護保育志望者に年間20回程度の放課後講座を実施した。職業人、地域の関係者、卒業生による進路講演会、大学等の実地見学をそれぞれ年間1回実施した。事業所におけるインターンシップを2年生の就職希望生徒に対して夏季休業中に実施した。	B	卒業生の話を聞く会(3年生7月)、進路講演会(1・2年生12月)、職業人の話を聞く会(1年生2月)、マネージャー講演会(2年生3月)と数年前から実施し、それなりに定着してきており、効果もあがっている。さらに講師を検討する等工夫してゆきたい。	●地域企業ともっと連携を図るのも得策だと思えます。 ●就職の厳しさなどを理解させ、生徒の意識を高めていかなければならない。
	各学年	進路意識の向上 3年間を見通した計画的な進路指導ができていると実感できましたか 進路講演会や進路ガイダンス等実施したが、それらが3年間を見通した展望の元に行われているとは言えず、生徒の進路意識向上に十分に繋がらなかった。	B	進路指導部と学年との連携をさらに密にして、より生徒の実態に即し、ニーズに合った学校を招くなどの工夫が必要である。	

平成23年度 兵庫県立東灘高等学校 学校評価

重点目標 II 地域に愛され信頼される学校（開かれた学校づくり）

	具体的な取り組み	評価指標 実施状況(今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員・学校関係者評価委員 の提言
活動の質的向上	総務部 地域交流活動	地域貢献活動や広報活動を通して、地域からの理解を得られていると実感できましたか 東北へのボランティア活動・おはよう運動・募金活動・ワークキャンプ・幼稚園児のプール指導・花育プロジェクト・グリーン作戦と多くの活動をした。なかでも東北へのボランティア活動がテレビニュース・新聞で大きく取り上げられた。	A	来年度もボランティア活動・おはよう運動・募金活動・ワークキャンプ・幼稚園児のプール指導・花育プロジェクト・グリーン作戦と多くの活動をし、地域貢献活動を増やしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ●東灘高校は場所的にも地域との連携は切り離せない。就職ができるというアピールも大事になる。 ●中学と高校との中高連携ができるようにしてほしい。 ●地元の中学生在が行きたいと思える高校であって欲しい。
	生徒指導部 地域貢献活動ボランティア活動	地域貢献活動やボランティア活動への自発的な参加を促すよう、呼びかけなどの指導ができましたか 文化祭での企業協力や東北ボランティア活動、授業におけるふれあい体験等を行ってきたが、自発的に参加・企画されたボランティア活動までには至っていない。	B	文化祭の企業協力等は継続し、ボランティア同好会を中心とした活動を積極的に展開できるように支援していく。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域企業との連携は大事であり、今後もさらに広げて欲しい。 ●深江から高校までの歩道は狭いと思えるが、もっと市にも歩道拡充などの要求を積極的にしていくべきである。
研究授業推進・情報発信の強化	総務部 情報発信	ホームページの更新や広報誌（学校新聞）の発行等、積極的に情報発信がなされていると実感することができましたか 毎月学校新聞を発行し、本校の広報に努めた。中央卸売市場の掲示板にも取り上げられ、本校の教育活動が広く周知されるようになってきている。	A	来年度も毎月学校新聞を発行し、本校の教育活動が広く周知されるように努力したい。また毎月ホームページの更新に努めたい。	<ul style="list-style-type: none"> ●公開授業週間に多くの保護者が来校するようにには講演会などとセットにする方がよいのではないかと。
	教務部 公開授業の実施※今年度から実施につき、現時点で教務部の項目として挿入	PTA・地域にむけた公開授業の意義を理解し、授業改善や指導方法の向上に役立てることができましたか 本年度は1回だけの試行であったので評価は定かではないが、授業参観をしたい保護者の希望があったが、公開授業週間の連絡が徹底されなかったという点があったが、緊張感を持った授業が行われたと評価できる。	B	アピールを強くする必要がある。もうすこし参観者が多くなるのが、教師、生徒にとってもさらなるモチベーションとなっていくと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域企業との連携をもっとアピールしていくことが大事である。
	進路指導部 職員・生徒に有益な情報の発信を心がけていく	月に1回は進路だよりを発行するなど生徒へのタイムリーな情報提供が実施され進路実現に役立てられたと実感できましたか 月に1回は進路だよりを発行するなど生徒へのタイムリーな情報提供を心がけたが、検討に時間がかかり、発行には至らなかった。10月の保護者会等で学年に資料提供を行なった。	C	全体の流れの策定に追われ、なかなかタイムリーな情報提供まで手が回りかねたのが正直な実感である。来年度は全体を見ながら、タイムリーな情報提供を心掛けてゆきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ●もっと情報発信の方法を工夫し、強化すべきである。
各学年 学年通信	各学年において、学年通信の発行や家庭連絡等、積極的に情報発信がなされ、保護者の理解と協力が得られていると実感できましたか 各学年とも定期的に学年通信等が発行され、家庭との情報交換も十分に行われていた。	A	学年通信はもとより、進路指導通信など各部分からの情報発信も行っていきたい。また、保護者からの要望も積極的に反映させることが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ●進路指導部が全学年と密に連携をとれるシステムにして欲しい。 	
説明会・オープンキャンパスの充実	総務部 学校行事の精選・充実を図る	学校行事の後、課題や改善点を意識をもって提言もしくはアンケートにまとめることができましたか ほとんどの学校行事でアンケートを実施し、結果がフィードバックされていた。	B	ほとんどの学校行事でアンケートを実施し、結果がフィードバックされていた。来年度はもう少し、グラフにすることにより見やすいものにしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ●オープンキャンパスでの頑張りが中学校に評価されたのではないかと。
	式典の推進				

重点目標 III 活力ある組織づくり

	具体的な取り組み	評価指標 実施状況(今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員・学校関係者評価委員 の提言
各分掌の目標設定(数値目標)の徹底	総務部 年間・月間行事予定の調整をする	各学校行事・学年行事の意義と教育効果を理解して、その実施に係わることができましたか 年間行事・昨年度行事をもとに、校運・各部・各学年の意見を聞き調整した。	A	来年度も年間行事・昨年度行事をもとに、校運・各部・各学年の意見を聞き調整したい。	<ul style="list-style-type: none"> ●企業でもP（計画）D（実践）まではするが、C（チェック、検証）は甘くなる。 ●C（チェック、検証）を甘くせず、A（改善）に繋げなければならない。
	図書	図書室への関心が高まり、活用が活発で、生徒と読書活動の活性化を推進することでできたと実感できましたか 今年度より導入したコンピュータソフトを導入することにより、学校図書館の経営がスムーズにできるようになった。	C	今年度同様、コンピュータソフト「図書丸」を本格的に活用することによって、職員・生徒の読書活動の活性化を推進するようしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ●本を読む環境を作る工夫が必要である。
	進路指導部 3年間を見通した進路指導体制を確立していく	図書委員会活動が活性化できたと実感できましたか 図書委員会の図書館における昼休み・放課後の図書館奉仕は、3年生が主体で活動した。1・2年生は2学期からは欠席気味だった。	C	来年度は学年図書係との連携を密にして、1・2年生図書委員の図書館奉仕の欠席を減らす工夫をしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ●読書について何か具体的な対策をたてて改善してほしい。
進路指導部		本校の校外模試の実施やその監督において、教職員の共通理解を得て実施することができましたか 1・2年では全生徒に模試を年間2回行い、3年では大学・短大・看護医療・就職と進路に応じた模試を年間5回行うように話し合った。2年生は7月に全員対象の模試を実施し、他は進路指導部会で検討した。3年では年度当初の計画で実施した。	B	今年度の県の通達を踏まえて、模試の監督は全員であつたように合意作りに励んでゆきたい。	

平成23年度 兵庫県立東灘高等学校 学校評価

	具体的な取り組み	評価指標 実施状況(今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員・学校関係者評価委員 の提言
報・連・相の徹底	総務部 保健との連携	保健室と学年や授業担当者との間で、生徒についての情報交換が有効に出来たと実感できましたか 複数配置になり、保健室が空になることがなくなったため、より迅速に情報を伝えることができました。	A	今年度同様、より迅速かつ、より具体的に情報交換ができるように、学年や授業担当者との話す時間を作りたい。	
	生徒指導部 共通認識・協働実践	普段から廊下や教室で生徒の身だしなみ（頭髪・服装）を丁寧に指導しながら改善を図ることができましたか 常時、全教職員で生徒の身だしなみには注意を払っていき、丁寧に指導していく。全校集会や学年集会またHRにおいては、常に注意喚起を行い、学校全体の取組としては「制服の正しい着こなし期間」で指導を徹底していく。	A	「制服の正しい着こなし期間」では全教職員で取り組んでいく姿勢を示すことができ、生徒の身だしなみについては改善が見られた。また、生徒指導部を中心として「女子のスカート」等、重点項目を決めて指導することで、指導の徹底化をはかることができた。	●さらにマナー・規範意識の向上に取り組んでいただきたい。 ●登下校における指導は地域との関係においても重要である。
	各学年 学級委員の活躍の情報共有	授業やHRを通じて、学級委員の役割がしっかりしていて、その役割ができていくように実感できましたか 委員長・副委員長、体育委員など常時役割が明確な委員はしっかりできていた。しかし、役割が常時でないものは委員という自覚があまりなかったように感じる。	B	各委員の役割、および活動を再検討し、平等に役割が分担できる工夫が求められる。各委員にその分野でのリーダーであるという自覚を持たせることが求められる。	
	生徒の情報共有	遅刻指導、頭髪指導の成果があり改善していると実感できましたか 遅刻指導、頭髪指導とも各学年、生徒指導部とも連携が取れ、成果が上がっていた。	A	情報共有を更に進め、本校長年の課題であった学年間の格差をよりなくしていく工夫が求められる。全教職員が指導に当たれる工夫も必要である。	●効果のあった指導は継続すべきであるが、まず年間の検証を行うべきである。
教職員の結束と協力体制 チームワークの確立	総務部 美化の推進	ほぼ毎日校内清掃の監督を行い。清掃活動を徹底して望ましい教育環境を作ることができましたか 先生方のご協力と生徒達の頑張りにより、年々少しずつは清掃が徹底しつつあるように感じる。しかし、清掃の手を入れない箇所が教員数よりはるかに多く、清掃が徹底できない箇所も現実にはあったことが残念である。 総務のごみ分別の案内や分別方法理解し、職員室のごみの分別は徹底できましたか 先生方にも生徒達にも年々少しずつは分別の意識を高めていただいているように感じる。しかし、アンケート評価とは裏腹に、担当者としては周知徹底が不十分だったと反省すべきところが多々ある。	A	一教員あたりの監督箇所が増えることになるであろうが、普段から清掃の手を入れられる箇所を増やしていく方向で調整したい。また、管理倉庫に眠っている用具の有効活用も検討課題である。 特に複雑となる職員室・印刷室のごみ分別について、より具体的かつ丁寧に周知徹底を図りたい。また、清掃時間の体育館裏のごみ捨て場に関して、捨て方の指導にかかる者を置く必要性も感じている。	●年間を通して計画的な大掃除も必要である。
	生徒指導部 学年や各部との連携を密にして、予防的な指導を行っていく	早期発見、早期対応のため、生徒指導部と学年の連携が図れましたか（学年外の先生方は、連携が図れているように感じましたか 問題行動の発生や事件・事故の報告が、生徒指導部へ連絡の入る体制が以前よりかなり早くはなり、連携が図れるようになった。しかし、時に情報の入りにくかった場面もあった。	B	事件・事故・問題行動の報告ができるだけ早く入る体制を組織的に取り組めるように整えていく。特に学年外の先生方や臨時講師の方々に即座に対応できていく体制を作っていく。	●さらに生徒指導に力を入れてほしい。
		生徒指導部と連携を図り、予防的な指導が実施することができましたか 生徒指導部会を1週間に1回定期的に開き、また、臨時的生徒指導部会においても情報交換を常に行ってきた。また、常に授業が困難な状況に陥った先生とは常に連絡を取れる状況にしておき、状況に応じて対応した。	B	生徒指導部会を定期的に開催することは継続していく。情報交換は常にできる状況にしておき、組織的に情報を受け取れる体制を整えていく。	●生徒にやればできるという実感を得られる指導をして欲しい。
		生徒の基本的な生活習慣を確立させるために、地域・保護者との連携や、協力関係を高めることができましたか 地域の人たちから入ってくる情報には丁寧に対応し、現場に足を運ぶ場面では即座に動いた。納得していただけるまで対応していった。	B	地域の方からいただける情報には必ずスピーディーに対応し、納得のいただけるものにしていく。その記録は必ずとっておき、どのような場面にも活かせるようにしていく。生徒に対する対応も段階的に組織的にできるようにする。	●中学生や保護者は過去の根づいた印象を持っている。 ●もっと学校の様子を保護者に知ってもらうべきである。
	家庭、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりをめざす	遅刻0週間、制服着こなし週間等の強化指導週間以外に家庭連絡や個人面談などを行い現状改善を図る努力ができましたか きめ細かな面談や、面談週間以外の面談指導では、各学年は保護者との連絡を密に行って指導してきた。	B	生徒指導の強化期間をのぞいても、継続的に各学年が面談でき、常に協力できる組織的体制を整えていく。	●生徒指導強化期間としては評価できる。 ●次年度への取り組み方が重要である。
	各学年 生徒の積極性を指導	授業やHRを通じて希望補習や校外模試へ積極的に参加するよう指導できましたか 放課後補習、考査中補習、長期休業中等の補習に参加を呼びかけたが参加者数が期待するほど増えなかった。	B	補習に参加することの意義・必要性をしっかりと理解させて人数を増やし、より活気ある取り組みにする必要がある。	●授業が大事であることは当然であり、全ての授業の成立をまず確立させて欲しい。 ●生徒への学習に対する意欲を高める指導を工夫して欲しい。

平成23年度 兵庫県立東灘高等学校 学校評価

重点目標 IV 明るく爽やかな職場づくり

		具体的な取り組み	評価指標 実施状況(今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員・学校関係者評価委員 の提言
磨きあい、 支え合う教員集団	総務部	人権	デートDV防止授業や講演会で、生徒の健全な人権意識が高まったと実感できましたか 今年度は警報の関係で日程調整が大変だったが、全学年同時に実施しデートDV防止講演会において、生徒の意識が高まった。	A	来年度は1年生のみデートDV講演会を行なう。各学年、年間計画を作成する。	
		保健	健康相談活動やキャンパスカウンセラーが効果的に活用されていると実感することができましたか 日頃の保健室来室の中で、問題解決できたことが多く、校医相談やカウンセラーにかかることが少なかった。	B	保健室来室の中での問題解決が、生徒にとってより良いものになるために、今まで以上に、専門的立場の校医・カウンセラーからアドバイスをいただくようよう時間を作りたい。	
	教務部	目的を持った学習活動の推進	授業態度・提出物などの評価規準を明確にし、評価の透明性を確保するとともに生徒の授業意欲の向上を図ることができましたか 各教科において評価の際に提出点、及び授業態度点を点数化して組み入れている。生徒へもその旨を指導し配点等も知らせ、努力を促した。生徒の反応から効果は大きいと感じた。	A	継続していく必要がある。提出点、態度点の重みをどの程度にするかは教科に任されている。どの程度が妥当か議論できると良い。	●評価の目安を決めておけばよい。 ●教員の自己評価そのものが甘く感じる。
		教務規定の整理	研究授業の見学や教員相互の評価を活用して、授業の工夫、指導技術の向上に努めましたか 本年度は研究授業や公開授業は少なめであった。ただし授業公開週間を設けるなど、授業改善に向けた動きが精についたところである。特に遅れのある生徒への対応で頻りに議論するところが出てきた。	B	外部への公開授業週間を年3回設けるなどしてより授業公開を活発にすることができる。また授業規律週間と合わせて、他の教師による授業参観の体制もとれるなど、授業改善が進むと思われる。	●保護者に来校してもらい機会を増やし、学校の中身を知ってもらわなければならない。
	生徒指導部	生徒との適切なコミュニケーションづくり	職員と生徒の間の適切なコミュニケーションづくりや望ましい人間関係を構築することができていると実感できましたか 面談週間やきめの細かい指導により、生徒の内面性をしっかり見つけることのできる指導を徹底していった。職員室の入室指導や挨拶指導においても、丁寧な言葉遣い等生徒の将来を見据えた指導を行っていった。	A	面談週間を継続し、できるだけ1学期に1回は面談を行えるようにLHRを利用することも視野に入れて、コミュニケーションをとれる機会を増やしていく。また、HR担任のみではなく、学年主任面談や生徒指導部面談などの他部署との面談機会も増やしていく。	●生徒だけの面談ではなく、保護者の来校機会を増やして欲しい。 ●保護者が学校に来ることによって学校に対する意識の持ち方は変わる。
各学年	LHR計画	1年間のLHRが計画的に運用できたと実感できましたか 各学年内容のあるLHRが実施できたが、1年間を見通して計画的に運用できたとは言えず、もう少し早めに余裕を持ってプランを練って行けば、より充実した取り組みができたと思う。	B	人権学習等も含めた年間HR計画を年度当初に立てたい。	●1つの学年の計画だけではなく、3つの学年に渡ってLHR計画を生徒指導部で掌握すべきである。	
良い職場の 風通しの	学校全体	スピーディーな情報共有	風通しの良い職場として実感できましたか 会議等の内容をタイムリーに全職員へ提供するシステムが必要で、職朝の時間では難しかった。	B	各会議に出席した職員が各分掌や各学年に持ち帰るなどの、スピーディーな情報共有を図るシステムづくりが必要である。また、風通しの良い職場へのアンケートなどを通して、広く教職員の意見を伺い具体的に取組んでいく。	●多様な意見が自然に出し合える職場であって欲しい。
適正化の 勤務時間の 推進	学校全体	ノー残業デーやノー部活デーを設定	「ノー残業デー」の推進に満足できましたか 1ヶ月1回から2ヶ月に3回を設定したが、推進には至らなかった。	B	教職員の意識も高めて「ノー残業デー」「ノー部活デー」の推進を図り、回数を増やしていく。	●学校の先生が忙しいのは理解できるが、意識の問題であり適正な勤務時間を確保できるようにして欲しい。